

SDGs 取り組みのお知らせ

アグリカルチャーユニオン・閉鎖循環型陸上養殖システムにより
持続可能な開発目標達成のために取り組んでいます。

アグリカルチャーユニオン・閉鎖循環型陸上養殖システムとは・・・

■システムの特徴

- ① ジャパンマリンポニックス社の閉鎖循環型陸上養殖システムがベース。
 - (1) 「光量」「pH」「溶存酸素濃度」「水温」「二酸化炭素量」「微量金属イオン」「有機炭素」「水流」「濾材」のTOTAL的ノウハウ。
 - (2) オリジナル淡水用プロテインスキマー（泡で微細な不純物を除去する装置）。
 - (3) オリジナル高機能溶存酸素濃度調整装置（適切な溶存酸素量に調整する装置）。
 - (4) 水換え量は、年間で全体の 1/3 量程度。
- ② オイルレスエナジー社の加熱装置を導入。

特許製品の加熱装置にて加温した水は、非常に冷めにくく、且つエネルギー水となる為、成長率及び生存率が向上する。水温の容易な管理と低ランニングコストを実現した機能水生成装置。また、溶存酸素を保持する水となる事も特徴。
- ③ ダイエーワーク社オリジナルの、茎から精製するステビア製品を水及び餌に使用する事により、養殖のより高機能化を実現。
- ④ 多種ある養殖品種の中でも、高い成長率と高い旨み成分を併せ持つヒレナマズを推奨し、養殖ノウハウを提供。将来の食糧危機解決の一助を担う魚種として考えられている。（5g の稚魚が 6 ヶ月で 1.5kg に成長。旨み成分のイノシンサンは、372mg/100g あり、養殖に適す他の魚種に比べて圧倒的な優位性をもつ）
- ⑤ サポート体制により、養殖が成功するまで補佐。

■システムとSDGs

- ① 「2 飢餓をゼロに」

【2-c】食料の価格が極端に上がったたり下がったりしてしまわないように、市場（マーケット）がきちんと機能するようにしたり、今どれだけの食料の備えがあるのかという情報を、必要な時に見られるようにしたりする。
- ② 「産業と技術革新の基盤をつくろう」

【9-4】2030年までに、資源をよりむだなく使えるようにし、環境にやさしい技術や生産の方法をより多く取り入れて、インフラや産業を持続可能なものにする。すべての国が、それぞれの能力に応じて、これに取り組む。
- ③ 「14 海の豊かさを守ろう」

【14-4】魚介類など水産資源を、種ごとの特ちょうを考えながら、少なくともその種の全体の数を減らさずに漁ができる最大のレベルにまで、できるだけ早く回復できるようにする。そのために、2020年までに、魚をとる量を効果的に制限し、魚のとりすぎ、法に反した漁業や破壊的な漁業などをなくし、科学的な管理計画を実施する。